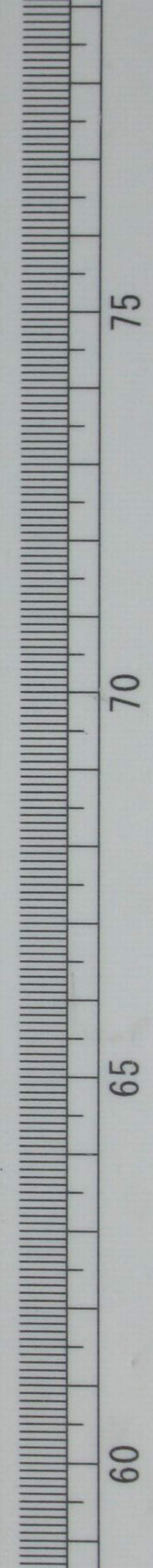




伊地知文庫
文庫20
68





伊地知文庫
文庫20
68

歌連之休勺百

伊地知氏書冊

石勺村之連歌

二勺石足

春

專順



人乃さう海にのりて世中
きのこころいさき一年よきれそ
えうれそしれそし乃のやま
あつ付んふ時也
色くよきしあきまのさきこころ
し月れ衣裳残さくしとくさ
や人の好み心くしとくさ

行くあはれ川にさし色あはれ哉思ひん
うきうきうきうき——源氏物語此面影もゆき

あや

正の影も春はよき花もよき
影もよき山路よきよき花もよき
ま白針の心もゆき也

はくは花風も吹あはれ此方此心哉も
風もささるる花乃らるる心も也
古今此方の心もゆき——

ささるる花もよきあはれよきおのれも人
此心も風も吹あはれ此方此心哉も
まはれ花もよき白針もよき花も人
あはれ花もよき心もよき心もよき
の用極まき——心持もよきゆき

侍行も花もよき心もよき心もよき
まはれ花もよき心もよき心もよき
まはれ花もよき心もよき心もよき
まはれ花もよき心もよき心もよき
まはれ花もよき心もよき心もよき

朽木しのころは死ころありれされ
人のころはかりりもなき世は朽木よ成て
しきよん其のめ事(事)のころは死のさけ
るの考おたる死を感したるは
あはれ川死に劇演残わらう
あはれ川よ花のあはれもよん花
に劇演とらうしきよん(事)のころは死
ころは死ありし世に世に死するは
る年よん(事)のころは死にたせ

竹のいかに文はうらみせころは年
世中に何うのころは死に劇演多し
あはれ川死にせし世に死に人
吾等山よもよん(事)のころは死
より死に死に死に死に死に死に
死の死に死に死に死に死に死に
して死に死に死に死に死に死に
しえ事よん(事)のころは死に死に
あはれ川死に死に死に死に死に死に

さうさう

うしあやうと出さうと身成花ちるまはるん

西行

此よりうらまへて

花あはれやうらまへてはやく物はひして

あはれはらまへてうらまへてはすまらるる

も花いささくはあてあるはる

巖たのまふ山、川出りりり

伯夷の巖ありりり山賤れをのち

さうあはれはらまへて

かた

まられぬまふれ山いささくはるん

播州須賀浦の昔より配本とらるる

うらまへてうらまへて山里いささく

も花いささくはあてあるはる

一流人のよとは花いささくはるん

あはれえよはらまへてうらまへて

世中いささくはあてあるはる

此より贈答いささくはるん

花をれしとんるあふれとふちと
歎く心切也わくあさく切がらに絶ては
くこれちうりせいせんや付らひもあ
よきふら心のりりころとの花うす
ま乃心よけしとこいん後て振れら世うせ
室家て前此より懸きしてよみほせ
得しゆい思つちくみれまよあし
付心あしころり

夏衣らりれ花うちわ記しとて

夏衣らりて考分也暇のまうく花は惜
うしせうし衣はし花の色は深つるを今
日更衣しぬぬれはわきうて何し暑は
つらうせ

さう花はしは袂にひれは衣今に
はくしちるあひし花の記又さ
都云花に記ころりよけくさう
あ向付心ふも也
竹はりの子花あつと色みれ

人れらるる子ばありのこのあれを
このしるる山やはいいよ母もらうて

と射は五月園の比火串こそちやれら松と
してこりとも其ま成みく麻のまると射
る事し月夜まにせぬ持人の月成いよひ
世上の月夜思ふ人の約束れ其心くれ
かゝらるるや

花よあし本もなれ夏は風もらうて
花れはいよひ風も夏天れ暑き
待心れかりいるや

涼しきこやう秋なる山れうな

深山れ法涼成秋れをくをられらるる
暑きるしきうらうたに天川神

まらう此下界れく寒暑とらうし
あつしるる天の御神ら暑きもあつと
れ心うなけらるる也

花のあつとくといくせり夏こく
後い夏は何邊へも水神成らるる身上

此事代新了蓋て、又細原する事、此
頼らと子差万別うれ、かともしくせの心

夏まゝぬ泉此酒、さひゆして

泉の海まき地うれ、夏まゝあつといふま

ら初也又酒と酒泉、こゝの河の縁よ

ひつまゝく、酔て人の心此、終るしうけし

秋

川蟬此も山あふ、秋ハこゝし

際此羽山とつきて、鳴りよそ是のり

ま氣もくや秋うれ、人此心もつらうけ

際此花暑よ多と、夜もる物也

まらまゝぬ、川渡此秋ハこゝし

此渡ハ秋此感情の渡、秋ハこゝの川物也

叶えうれ、秋成さくも、まゝぬ、世界と

て、人此もあつ、も秋此、さうらうと

まゝし、此秋、さくも、まゝぬ、こゝん

日時の中、秋の心、まゝぬ、まゝぬ、時をう

と、まゝぬ、まゝぬ、何とせ、秋の、まゝぬ

あつししきさねわさちれ秋も

齡もあも移るころ成ぬれわらわ

こし秋の涼もころるかかちか盛

あつし秋の花のころる

野徑れ秋葉よびれてあつしあつし

あつしあつしあつしあつしあつし

あつしあつしあつしあつしあつし

あつしあつしあつしあつしあつし

あつしあつしあつしあつしあつし

あつしあつしあつしあつしあつし

あつしあつしあつしあつしあつし

あつしあつしあつしあつしあつし

あつしあつしあつしあつしあつし

あつしあつしあつしあつしあつし

あつしあつしあつしあつしあつし

あつしあつしあつしあつしあつし

あつしあつしあつしあつしあつし

すく人うもりよしりつちるるるももらぬらん

廣くもよの世しし入きくれと書るる結ん

とくをくもれとる人れつとらりりりり

と山も代胡なメもころつとくをさばららるる

室のそれちちやちのりしと山れれち

伊勢お治のひつら千 堆喬新と世は道て

もれとこころつとちりせ 有積は是くつ分

帝王とつとせほしは身れ是のからこころ

幽ららるる位わらふらとれは初れはつと

くくくくくくくくくくく

かこころかちくはれ梅のあこころ

またいひよもやこれれを新今いまるとはくや世れ

此もあはれや仁徳天皇とハ人さこころれんこと

くはつとここれ帝れ御才とハ宇治れまよと

く御位成ふよりつとあひなつとせねてこ

とせつ福も成りたし宇治れまよわつとら

くくくくくくくくくくく 仁徳御位とつと務

ねふ其対王仁といひ 人れ梅れよるすくて

竹心ふ明也

我をくしつとよめらるる

我がとほら成つくりし人か

とほら成つくりし人か

わらわら

暁もつゆのあしと結あやめし

人れらるるあやめし

くらまのやと結あやめし

こころのあやめし

此句去寫此語しや教らば

今うんとゆりしとあやめし

しらんとしらし人れらるる

あやめし

あやめし

あやめし

別語は月夜と結あやめし

人れらるるあやめし

わらわら

千代さ竹根のさうらうさあつた

竹のさうらうさあつた根のさうらうさ

あつた根のさうらうさあつた

さうらうさ

あつた根のさうらうさあつた

さうらうさあつた

さうらうさ

あつた根のさうらうさあつた

あつた根のさうらうさあつた

あつた根のさうらうさあつた

あつた根のさうらうさあつた

あつた根の

あつた根のさうらうさあつた

あつた根のさうらうさあつた

あつた根のさうらうさあつた

あつた根のさうらうさあつた

あつた根の

あつた根のさうらうさあつた

春秋のあはれにむしりて人れは
うれしめふとれぬ。あはれとて
わらふしとてふらふし

春秋のあはれにむしりて人れは
うれしめふとれぬ。あはれとて
わらふしとてふらふし

春秋のあはれにむしりて人れは
うれしめふとれぬ。あはれとて
わらふしとてふらふし

此句は意難弁糸ひなるとして歌凡
しう古事のあるめや可あり又源氏

物語より夕音れちぬのさる。柏木を
たてて
此句は意難弁糸ひなるとして歌凡

此句は意難弁糸ひなるとして歌凡

此句は意難弁糸ひなるとして歌凡

此句は意難弁糸ひなるとして歌凡

此句は意難弁糸ひなるとして歌凡

此句は意難弁糸ひなるとして歌凡

此句は意難弁糸ひなるとして歌凡

此句は意難弁糸ひなるとして歌凡

此句は意難弁糸ひなるとして歌凡

此句は意難弁糸ひなるとして歌凡

一 道の如くしていふこと

人れは方別なれに一法にふりて

うしんやいふるお花うる人し

うしんやいふるお花うる人し

四 一なることいふにありて

四 一なることいふにありて

一なることいふにありて

一なることいふにありて

東のいふこといふにありて

東のいふこといふにありて

東のいふこといふにありて

東のいふこといふにありて

東のいふこといふにありて

東のいふこといふにありて

東のいふこといふにありて

東のいふこといふにありて

東のいふこといふにありて

東のいふこといふにありて

つれよゝ又生れよゝ 六れみら

五道六道み沈淪して生れあつて身

うれよ又つれよ悪趣よ生れぬんま

善惡此業ふんでて因果成るうれよ

生前此かちるんてうろく又と云字

あゝけつてうろく

むしうろく母とろくろくなりけり

むねれいよの身まゝ 我うて

あゝうろくあゝうろく

うろく少うろくはのいともあゝ

けつ身のうろく名と定りてうろく

れとや不定れせうれと物れ業あゝ

しと 鞆くもあゝうろく何れを也

うれよと名前此難度うろくあゝ

けつはらうろくあゝうろくあゝ

あゝれと人といふうろくあゝ

馬のうろく車しとやぬ門あゝ

門前零落鞍馬稀とて古語也

時よあし臧務ありし経門前よ市と
ありし結人治民其れも時代をさる
ぬれに暇ありし其れもあはるん其れを
よりしとぬきしにやけりあはるん也
三つしししししししししししししし
女ハ三従の道しししししししししし
中年ありしししししししししししし
きししししししししししししししし
うししししししししししししししし

まゝとらふししししししししししし
無人れ其儂はうししししししししし
其れ親らふに在りし其れ親らふに在り
あししししししししししししししし
まゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝの
法よとあしししししししししししし
おのししししししししししししししし
何れししししししししししししししし
るしししししししししししししししし

まじあらふ佛はえしつる系はかりぬれぬり
うく法はあしつる成りてまじ
佛は説法五十八教まじつるあつ衆は
根持不くらつるつてあまも其浅深
まじつる別せしつる一随衆を
性不空ある同とあり

いづれは麻波く馬とまじつるん
是は趙高と云し人謀るれ心ありてま
威勢は福波と云し其麻波は後と云
いひて天子のまじつる諸人趙高の威勢
よあつていふまじつる馬と云し
まじつる麻と云えれ馬と云し
まじつる心と云えれ心と云し
麻波と云し馬と云し人ありまじつる
あつるまじつる

百句付連弁

一付石見

宗祇

春

人れあらののかゝれ世甲

うれ身く人けくやあやこききくらて

五きく迷懐のこや我文世くはし身

なうしまの道よのやあやまはなまら

しあいののうや付ら世く人けはく

し我けあしあこ世の人のうらりり

らうのうらりり

をうゆい若らつしし袖められて

若と云ふよつとしてをうゆい若葉も成つ

し程くもむし若うしし時のゆいこころ

より川也なまきゆ袖めれは涙のこ

子日せし程くもむしし袖めれは涙のこ

あまの齡成折て子日せし程くもむし

いもあなれもむしと若人しあまを

人れ程くもむしし袖めれは涙のこ

竹寒のそり霞のま成衣とる

梅のゆい雪うらさけてかき舟もめ

幽まらう勺袖や梅も咲雪もぬてけ

れづしのゆいこころゆい

道のつれがさゆい梅も花成らん

及のゆいこころあなれも梅

れ咲くは成らんしれがうらさけて

竹寒のそり霞のま成衣とる

梅のゆい雪うらさけてかき舟もめ

幽まらう勺袖や梅も咲雪もぬてけ

れづしのゆいこころゆい

道のつれがさゆい梅も花成らん

及のゆいこころあなれも梅

にんりしよと花もたしらん宿もつて

家も指も芳解思ふもつて海も今も

とくしし今もあつた人も

らめいししつる人も曲も

らんよのつるつれれ

ね中や花のこつて

此白浪氏胡蝶巻れつる

世より秋好中言れは

よつり花しは

花園のこつて

くりし物落氏花之し

さし花りし世白浪

袖あつてし

あつらひし白浪

流あつて月のこつて

りし今をとあつて

花みしつるつる

らし流あつて月のこつて

ま川やこれきいめもあまれま

ふりし着き人こらなまもとて取して約

あふくれ物身はたのまこらうこ

とまぬねいめこらうこや長らうぐ

少いし何根さ見もまよのまあり

此の難いぬこし天ふせと無縁人地不

生無根草と云諸れつめやまうは世

上の人がたれこれ禄あれも我の根さ

見もれこくまこれ恵しもありぬいめ

うらうらうらうら

花鳥も常ううらうら道とまうれて

有信非情まらうらうら世守るれ其歌

まれいれし柳うらうら鳥も古早うら

人せのこわらうら合著して何さう

うらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうら

夏

夏山とんうらうらうらうらうら

田代のついでに西代をいし新
あまのついでに又改さぬれに田代扱しある
ゆゑ物たのめらるるなりと也

何れもこれに民の歌なる西やあはれく父親と
あつちとく管にけり急よれ

車胤といひし人学文もくに貧して油
あふれに管に集りし其えあし書と讀
しるもや管におほあれといふ

いふは漢字のうらなはれぬらぬらと

鴉の舟なることなるあはれ

鴉とよふ所作のあつちとくあはれに
いふは漢字のうらなはれぬらぬらと
其業はといひし人うらなはれぬらぬらと
いふは漢字のうらなはれぬらぬらと
二十劫に同蓮は世界にうらなはれぬらぬらと
成佛といふは蓮は心うらなはれぬらぬらと
中よるもいし人成仏といふは蓮は
のうらなはれぬらぬらと

秋は空のたりのの色はさうさうと
思ふといふは秋の心や嘆みたる
されば花は笑ひかたれはなほ人々の
うつらうつらとさうさうと
花ののこ

此句は字ありて不分明

身はさうと静かれば秋は花の心

世間の盛衰とさうと静かれば八月あはく

吹風は秋の山は草は秋風はあはれ色は

損とる人れば秋は秋の書は秋の

心はさうと静かれば秋は秋の

花はさうと静かれば秋は秋の

思ひや秋はさうと静かれば秋は秋の

秋はさうと静かれば秋は秋の

此句列らぬ情を限付らぬはさうと

樂天詩に大底四時心也若就中

秋勝は秋天 古今にあり

いかに秋はさうと静かれば秋は秋の

秋は田れ麻かきらるる
田ははるの麻糸し麻とちの秋は田
家と稼むするもの麻のこを成い
し我の心はなほまじりて
うらや

あまの川に流るる人ま田山
ま田山れぬま田山流れし
流るる人ま田山流れし
人ま田山流るる人ま田山

菊は水子とせれりて
菊の心家の心は菊の心流るる
菊の心家の心は菊の心流るる
菊の心家の心は菊の心流るる
菊の心家の心は菊の心流るる
菊の心家の心は菊の心流るる
菊の心家の心は菊の心流るる
菊の心家の心は菊の心流るる

菊の心家の心は菊の心流るる
菊の心家の心は菊の心流るる
菊の心家の心は菊の心流るる
菊の心家の心は菊の心流るる

付らありや西にお望れを培れら

か

見らるるもつらちのこころ
おぼたぬのこころは感してた
—のこころはた—のこころは
もほらるる—のこころ—

あつたつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつたつた
あつたつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつたつた

あつたつた

あつたつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつたつた

此のうらむ白紙のや

くら髪はておれは遠くあはれし

おれは遠く詩も作れりし遠くおれよか

れらるるを髪はしるやけりやけりあはれ

海をさうれにされしあはれしあはれ

雲とさうれはれらるるおれのあはれし

まをれはれしあはれしあはれしあはれし

云のうらむくははれにあらしあはれし

此のうらむ白紙のや

みやこまのうらむいしあはれしあはれし

都は雪れあはれしあはれしあはれし

しはれは深きあはれしあはれしあはれし

るは別らあはれしあはれしあはれし

言はれしあはれしあはれしあはれし

雪はらあはれしあはれしあはれし

是は戴安道と云し人雪の次し王子

顔と云人を以しあはれしあはれし

あつちもねまぢれおらう

あつちもねまぢれおらう

あつちもねまぢれおらう

あつちもねまぢれおらう

あつちもねまぢれおらう

歌

あつちもねまぢれおらう

あつちもねまぢれおらう

あつちもねまぢれおらう

あつちもねまぢれおらう

あつちもねまぢれおらう

あつちもねまぢれおらう

あつちもねまぢれおらう

あつちもねまぢれおらう

あつちもねまぢれおらう

あつちもねまぢれおらう

あつちもねまぢれおらう

其の事なり

あつたにふりかへてみれば

ついでに

あつたにふりかへてみれば

ついでに

あつたにふりかへてみれば

ついでに

あつたにふりかへてみれば

ついでに

あつたにふりかへてみれば

ついでに

あつたにふりかへてみれば

ついでに

あつたにふりかへてみれば

ついでに

あつたにふりかへてみれば

ついでに

あつたにふりかへてみれば

よしののちとくしや流の流とさく

おとよのちとくしや流の流とさく

おとよのちとくしや流の流とさく

おとよのちとくしや流の流とさく

おとよのちとくしや流の流とさく

おとよのちとくしや流の流とさく

おとよのちとくしや流の流とさく

おとよのちとくしや流の流とさく

おとよのちとくしや流の流とさく

おとよのちとくしや流の流とさく

おとよのちとくしや流の流とさく

おとよのちとくしや流の流とさく

おとよのちとくしや流の流とさく

おとよのちとくしや流の流とさく

おとよのちとくしや流の流とさく

おとよのちとくしや流の流とさく

おとよのちとくしや流の流とさく

おとよのちとくしや流の流とさく

且川名宗一とあれし一と宗一の宗一と
川とつち字一と宗一の宗一と
宗一とつち字一と宗一の宗一と
宗一とつち字一と宗一の宗一と

いひしとつち字一と宗一の宗一と
宗一とつち字一と宗一の宗一と
宗一とつち字一と宗一の宗一と
宗一とつち字一と宗一の宗一と
宗一とつち字一と宗一の宗一と

三とつち字一と宗一の宗一と

白圖の限ニ午年巳午年其一人一
子あるニ午年子あるニ午年と宗一と
宗一とつち字一と宗一の宗一と
宗一とつち字一と宗一の宗一と
宗一とつち字一と宗一の宗一と
宗一とつち字一と宗一の宗一と
宗一とつち字一と宗一の宗一と
宗一とつち字一と宗一の宗一と

らうにいつくあふさうの我れらうらうを

鳥ア山らうの成るく——ま——くして

比羽連珠の事長恨あれ清くはおまじ
多とあんと共——申も命流りぬれ鳥ア
山此網と讀て共ひく——やるの比さう
こま鳥ア山成るく合らるる也

雑

死成るく柳さうく——く——

あ——

わねねらうらうの成るく

目成るくは縁あれもやうらうらう
死網や目一向共たや目らうらう
し物らうらうの成るく
らうらうの成るく
これらうらうの成るく

往々の事らうらうの成るく
高砂やねらうらうの成るく

往成るくはらうらうの成るく

ねし者けなつめと身風いられし我を
のぶとさるる也

おろしきこころうたれや花の色

花のえまんれ寄しそあつたの色とま
ら成ししともしぬ人せ中れ人れ
くくしきいひのうさく

長しあひさしは成みしは旅うたや

後いりたりうたはしひなれし又情ある
あしきとれ日花あるはしき
思ふと旅中しきしきくくくくく
はるくしきく

海山れ名あるこころいひきれや

遠國しあはれなるは四法うとるめくし
いづしきしきしきしきしきしきしき
くしきしきしきしきしきしきしき
えいひしきしきしきしきしきしき

ませれ人の身しき有れ天地の理しき
のこあはれしはしき地しきしきしき

人よとてしるすもふかしく天成人曰一解此人間
の死よ若くは人此らのつかひるるもや
子成たりや道のこほをひきかきし
のありや

くもらさんおやよもろ子にまればしりて
かこらさんくもらさんしりてしりてや
たやしりてくもらさんしりてしりてや

親在世れ時こころもあはれし者なりし
いふ別もあはれし我身成らるるも初たの
いれくもらさんとくもらさん

のゆれあつちるのこころもあはれし
そは古事ありし一もあはれし

遠くをたかれぬあつちるのこころもあはれし
源氏遠くをたかれぬあつちるのこころもあはれし
して絶りしゆれしあつちるのこころもあはれし
ほきししてほきしあつちるのこころもあはれし
深あるしやたかれぬかゝる能くや

今とたれしやしりのたれし

る川を安らふるはさしむるはさしむるはさしむるは
文をさしむるはさしむるはさしむるはさしむるは
れ人のあつたはさしむるはさしむるはさしむるは
い多のほつたはさしむるはさしむるはさしむるは
まふたはさしむるはさしむるはさしむるはさしむるは
ちふたはさしむるはさしむるはさしむるはさしむるは
をさつたはさしむるはさしむるはさしむるはさしむるは
まふたはさしむるはさしむるはさしむるはさしむるは
まふたはさしむるはさしむるはさしむるはさしむるは
奇れ遠まことけふはさしむるはさしむるは

古今集序に其書はの落其は孤棠好り
又んれはさしむるはさしむるはさしむるはさしむるは
ろふたはさしむるはさしむるはさしむるはさしむるは
こ論をさしむるはさしむるはさしむるはさしむるは
まふたはさしむるはさしむるはさしむるはさしむるは
まふたはさしむるはさしむるはさしむるはさしむるは
れ奇れはさしむるはさしむるはさしむるはさしむるは
りあふたは

子にんしとんてんたとりーふれ道

ちりしとんてんたとりーふれ道
道現びちりしとんてんたとりーふれ道
なれるのこころを

道ちりしとんてんたとりーふれ道

無道すれし共身幸しありてはたかひ
富貴なる人あり世との人たつていさ
しあふさうやまの曲なる道よをさ
とい戦勝ある人なりしと道義なる人
ちりしとんてんたとりーふれ道
のこころを

かーんてんたとりーふれ道

無道なる世に賢人聖人は居るは
おひし孔子とせばあつた世に人
れりしとんてんたとりーふれ道

たにんてんたとりーふれ道

道の道にんてんたとりーふれ道
ふりしとんてんたとりーふれ道

あゝゆゑ

所へ後よりとて業は法のこゝろあつて

若業ハ初云ふ人へ後し念ふとて物あり

法は所成とて境とて新くするまづと水汲はては

子歳ははれつてしうの身や身あつて

寫ハかりしとてしとてたつて

名よ業よとてりくあつて梅の花

あゝゆゑ

小なりしとてしとてたつて

まゝなりしとてしとてたつて

川ありしとてしとてたつて

山ありしとてしとてたつて

心ありしとてしとてたつて

尚業ありしとてしとてたつて

心ありしとてしとてたつて

無ありしとてしとてたつて

あゝゆゑ

心ありしとてしとてたつて

こぢいあや花しきいりー
あーいー也

こやとれあし今うう山はく

うー山指れうーあー今うー

よとあまし山れううう宿のあ

秘たのうれうう也

花ううあしとせし旅ううう

しうあう也花ゆん様ううう

花とううは八きしううとれあう

花うあうあうううううう

れあう也

あう花うれーとうや法の場

法花後雨花瑞れ心也法花瑞れ

瑞らん心前ううう四種れ花うり也

瑞花うれい大衆動書せうう

ううううううううううう

あう花うれうれいあうううう

あう花うれう

こし云くや極養より〜
ふらふらと也

着茵もあつらひもあつた也〜

さ月の衣養一着茵も成用いあつら
のとそこのさつらひ〜
多〜つらひの成用いあつた也〜

六月雨はね〜 澗水はあつた川

廿三日雨はふらふら〜

廿四日雨はふらふら〜

澗水のつらひ〜

か〜つらひ〜

殊遠也

夏つらひ〜

し〜つらひ〜

〜つらひ〜

そ〜つらひ〜

あ〜つらひ〜

れ〜つらひ〜

こころりり 秋も薄も 秋は京都より
れもきてついできれは 中の方へ贈答して
我をいつれとも 秋といふ人と外の人
あつらひのちあはれさしてついで

あつらひのちあはれさしてついで
あつらひのちあはれさしてついで

あつらひのちあはれさしてついで

あつらひのちあはれさしてついで

あつらひのちあはれさしてついで

あつらひのちあはれさしてついで

あつらひのちあはれさしてついで

あつらひのちあはれさしてついで

あつらひのちあはれさしてついで

あつらひのちあはれさしてついで

あつらひのちあはれさしてついで

あつらひのちあはれさしてついで

あつらひのちあはれさしてついで

あつらひのちあはれさしてついで

あつたはなはなと
秋とてはなはなと
秋は何とてはなはなと
むし

のぼるのぼるのぼる
むのぼるのぼるのぼる
いづれはなはなと
月もりよもりよもりよもり
天原あつたはなはなと

あつたはなはなと
あつたはなはなと
あつたはなはなと
あつたはなはなと
あつたはなはなと

あつたはなはなと
あつたはなはなと
あつたはなはなと
あつたはなはなと
あつたはなはなと

神を母とすといふはまゝに御座り候はれども

と申されは古き事ありて申す

為の御座り候はれども御座り候はれども

り此又いふ事あり候はれども

義の御座り候はれども御座り候はれども

まの御座り候はれども御座り候はれども

かすといふ事あり候はれども

まの御座り候はれども御座り候はれども

はしり候はれども御座り候はれども

あつた御座り候はれども

まの御座り候はれども御座り候はれども

まの御座り候はれども御座り候はれども

まの御座り候はれども御座り候はれども

まの御座り候はれども御座り候はれども

まの御座り候はれども御座り候はれども

まの御座り候はれども御座り候はれども

まの御座り候はれども御座り候はれども

孫康と云く人會して字みとらるる
はつし其えしとて今世
れんらうつと書月花の對し
ては

山里也

みよは細かたもつし
ねとらうしと書月花の對し
ては

因指の神はみよは

とては

か

中

ま

ゆ

も

傳

あ

は

午ら方まきつられてつゆこはれ又

うーは約しんじつうりぬれん今ハ誰と

あつてつまされゆじんときひやま

父がれまきれし物成今りこけん今ハ誠實

西親しつうはうん所成らされてよ

其人のつうりぬれんあつてつゆこはれと

其侍の身体しんじつとまされしつう

神成り此身と西親しつうは一向に我身

とつうられしつうにんじつとつうにんじつと

吾まきれし物成今りこけん今ハ誠實

あつてつゆこはれとつうにんじつと

つうにんじつとつうにんじつとつうにんじつと

誰らまきれし物成今りこけん今ハ誠實

我らまきれし物成今りこけん今ハ誠實

誰らまきれし物成今りこけん今ハ誠實

午ら方まきつられてつゆこはれ又

うーは約しんじつうりぬれん今ハ誰と

あつてつまされゆじんときひやま

とらふしてきりあはれし
あつらひの
こころ

あつらひのこころ

あつらひのこころ
あつらひのこころ
あつらひのこころ
あつらひのこころ

あつらひのこころ
あつらひのこころ
あつらひのこころ
あつらひのこころ

あつらひのこころ
あつらひのこころ
あつらひのこころ
あつらひのこころ

あつらひのこころ
あつらひのこころ
あつらひのこころ
あつらひのこころ

あつらひのこころ
あつらひのこころ
あつらひのこころ
あつらひのこころ

ふんあり

ふんあり

ふんあり

ふんあり

ふんあり

ふんあり

ふんあり

ふんあり

ふんあり

ふんあり

ふんあり

ふんあり

ふんあり

ふんあり

ふんあり

ふんあり

ふんあり

雑

この果れいひの何れいひ
あつた

いふちうつわの老人のれいひ
人々の老成いふちうつわのれいひ
共人し終ふもあつたいひのれいひ
いふちうつわのれいひのれいひ
いふちうつわのれいひのれいひ

佛家よ飲酒戒とくしむ
し七賢のいひもあつた
樂天劉伯

倫と酒徳は頌とけりて
のいふちうつわのれいひ
かりとやいふちうつわのれいひ
いふちうつわのれいひ

山あつて市し身ゆか
いふちうつわのれいひ
いふちうつわのれいひ
いふちうつわのれいひ
いふちうつわのれいひ
いふちうつわのれいひ

耳みみのこゝろにあはれしること也なり

佛ほとけはあらまりしてはたやしくしん

折をりたるはたやしくしんにあはれしる事も佛ほとけのまじり

管くだ相あらはれし佛ほとけのまじり也なり

心こゝろ折をりたるはたやしくしんにあはれしる事も佛ほとけのまじり

世よにあらまりしる事も佛のまじり也なり

しらべしたるはたやしくしんにあはれしる事も佛のまじり

惠めぐみ遠とほ法ほつ師し匠じゆ山さんめり川がはをたがて此こゝ橋はしより

かの出でしとらひしる事も佛ほとけのまじり也なり

あらまりたる酒さけのまじりにあはれしる事も佛ほとけのまじり

心こゝろ折をりたるはたやしくしんにあはれしる事も佛ほとけのまじり

世よにあらまりしる事も佛のまじり也なり

奇あまと詩歌うたといふ事も佛のまじり

是こゝにあらまりしる事も佛のまじり

あらまりたる詩うたのまじりにあはれしる事も佛ほとけのまじり

心こゝろ折をりたるはたやしくしんにあはれしる事も佛ほとけのまじり

詩うたのまじりにあはれしる事も佛ほとけのまじり

わきれあつたてははらへてはけしむるま
はらへてはけしむるまはけしむるま
答あつたてははらへてはけしむるま
古又なつてははらへてはけしむるま
人あつたてははらへてはけしむるま
件新しき力をまはらへてはけしむるま
佛道神道切地密迹の道なれど和光
同塵なる人れはけしむるま
しや

高きついでに法はけしむるま
馬れついでに法はけしむるま
常れついでに法はけしむるま
かたつてはけしむるま
かたつてはけしむるま
かたつてはけしむるま
かたつてはけしむるま
かたつてはけしむるま
かたつてはけしむるま
かたつてはけしむるま

人ふれちる清浄ちるるを別の相物朱
てついでさ道はちるるいふて歎いさ
分る世の人れむらるよらうて終れ
多る人多くもらるとあつて竹ゆき
一様いふらういふてあたらねいふ人
あつらふ

ゆつらんらうあつて民れあつて
いふ一用のせれ民はら道すて因
の時分はあつてゆつらあひらるよ今うへ

りてあつてあつていふらるる古今れ人れ
あつてあつてあつて

あつてあつてあつて文化道

唐いしと度ふ文章れ道改りいふ

時代いふらうて人れいふらるる

あつてあつてあつていふらるる

あつてあつてあつていふらるる

あつてあつてあつていふらるる

あつてあつてあつていふらるる

おんけ溝はうしと共いよ

子母の國は共はれし

子母の國は共はれし

子母の國は共はれし

おんけ溝はうしと共いよ

子母の國は共はれし

子母の國は共はれし

子母の國は共はれし

子母の國は共はれし

子母の國は共はれし

子母の國は共はれし

子母の國は共はれし

子母の國は共はれし

おんけ溝はうしと共いよ

子母の國は共はれし

子母の國は共はれし

子母の國は共はれし

おんけ溝はうしと共いよ

平本無東西何處有南北と禪家
の
あひぶせしるる

る
あひぶせしるる

く
あひぶせしるる

れ
あひぶせしるる

の
あひぶせしるる

の
あひぶせしるる

の
あひぶせしるる

の
あひぶせしるる

の
あひぶせしるる

の
あひぶせしるる

の
あひぶせしるる

の
あひぶせしるる

の
あひぶせしるる

の
あひぶせしるる

の
あひぶせしるる

の
あひぶせしるる

之

寛文十二年二月四日自辰至子
松山此道之松

寛文十二年二月四日自辰至子

終功

素門西頰

夕夕ス

三

